

京都府保健環境研究所年報第60号の発刊を記念して

「衛生研究所の設置指令があつてから既に二年有半、最早や他の府県では、卒先^{*1}、その大半を設置せられたにも拘はらず、我が京都府に在りては、昨昭和二十四年十月一日に設置を見たので、その発足が少々おくれた感がないでもない。」

京都府衛生研究所報第1号（昭和25年4月15日発行）所載の土屋忠良初代所長の「発刊の御挨拶」の文頭です。土屋所長は以下のように続けられています。他府県の機構を見るとほとんどの職員が兼務であるところが多いようで、それでは形態だけは整ったとしても、内容は今までと何ら変わらず大した意義がない。名実ともに独立したものでなければならぬとの考えから相当の日時を要したが、「部課長を始め、全所員は何れも専任とし、人材を集め得たことは何といつても心強く、且つ誇りであると思ふ。」と述べ、京都府衛生研究所設置に関しての並々ならぬ気概が伝わってきます。

所報については、「…、学界、業界からの切なる要望もあり、所員の熱心なる意向もあつたので、差当り四ヶ月に一回宛年三回、所報を出すことに相成つたのである。」といういきさつで始まったものであり、現に昭和25年には4月、8月、12月の3回の発刊が記録されています。この「京都府衛生研究所報」は昭和34年3月発行の第10号より「京都府衛生研究所年報」と名称を改め、第17号から第22号（昭和48～52年発行）は「京都府公害研究所年報」との合本として発行され、第23号から第38号（昭和53年～平成5年発行）は「京都府衛生公害研究所年報」、そして第39号（平成6年発行）以後は「京都府保健環境研究所年報」として今般第60号の発行を迎えることができました。

記念すべき所報第1号の原著論文は「梅毒の血清学的検査方法に関する研究（第一報）梅毒血清診断法実施に関する二、三の疑義 京都府技師平田一士」です。「所報時代」の第9号までの原著を調べてみますと、赤痢菌、梅毒、インフルエンザ、集団食中毒など感染症に関連した内容が多いのですが、「市販葡萄糖注射液のPH値に関する試験（第4号）」「余等の考案にかかる水中微量弗素の定量法に就て（第5号）」「メチールプロパミンのペーパークロマトグラフィーによる確認法（第6号）」「京都府下に於ける恙虫の分布調査（第7号）」「パンの試験について（第8号）」「雨水中の放射能測定について（第9号）」など薬品や食品の理化学検査、大気や水質さらに環境動物など現在の私たちの業務範囲に相当する幅広い調査研究がおこなわれていたことが分かります。このころの時代背景をうかがわせることとして、集団食中毒などに関する原著では、患者の氏名・性別・年齢はもちろんのこと、場合によっては生年月日や住所まで明記されており、個人情報管理が極めて厳格になっている現在とは隔世の感があります。また上記「パンの試験について（第8号）」では30件の収去検査のうち3件で異物（獣毛・竹破片・小石金属片）が認められていますが、「パン内の異物はパン製造業者の衛生設備及び業者自身の製造態度によつて大きく左右せられるものであるので抜打ち収去を行ったのであるが結果は良好であった。（中略）異物の量がきわめて少ないので（後略）」と述べられていますが、1件の異物混入であっても業者による自主回収が常識化している現在を鑑みると、いかに清潔な衛生環境が維持されているのかと実感せざるを得ません。また歴史的事件とのかかわりは第9号所載の原著、「森永ドライミルクの検査について」が示しています。昭和30年6月頃から西日本で発生した乳幼児の食中毒事件で、岡山大学が森永乳業の粉ミルクが原因である可

能性があると発表した同年8月24日、京都府衛生研究所にも検体が搬入されました。森永乳業製以外の粉ミルクも含め24検体が搬入され、4月中旬から6月下旬にかけて森永乳業徳島工場で製造された粉ミルクのみからヒ素を検出してその原因究明に大きく貢献したものと思われます。

さて60号という節目を迎えた本号には、平成26年度に行われた調査研究や行政検査等の報告が収載されています。感染症関係と大気関係が各3編、食品関係と環境生物関係が各2編、危険ドラッグ関係と産業廃棄物関係が各1編の合計12編が収載されています。いずれも、現状を把握した上で、未来に向けての課題が記されています。私たちは時代の変化について行きながら、衛生面ならびに環境面で人々の安全で健康な生活を守る基盤を確立するための調査研究を行っていかねばなりません。

所報第1号に、衛生研究所の使命として、

「イ、病原の検査及び血清学的試験検査

ロ、薬品其の他の化学試験検査

ハ、食品及乳肉の試験検査

ニ、環境衛生に関する試験検査

ホ、地方衛生に関し必要な調査研究

ヘ、保健所其の他の衛生に関する試験検査施設の指導、監督」

と記されていますが、これは65年を経た現在における地方衛生環境研究所の使命と何ら変わるものでなく、これからも踏襲していかなければならないものです。また所報第2号には、昭和25年7月20日に京都府において2府8県が集い、第1回の東海、近畿、北陸地方衛生研究所化学協議会が開催されたことが記され、この発端として「これは試験の対称*1を求める分野が非常に広がって来たことがその原因の一つであるが、又試験法の制定せられていないものが多いこと、試験法自体の解釈に苦しむことも又大きな原因だと思ふ。」という声が各衛生研究所から上がり、開催が企画されたと記されています。このことは現代においても全く姿を変えることなく求められているものです。新たなウイルスや化学物質、薬品などの出現、それらに対する新たな検査法の開発と普及、さらに既存の検査機器や検査方法の拡大活用など、私たちが修得していかなければならない知識や技術、自由で豊かな発想の展開力はとどまるどころがありません。

第60号の発行を機会に、これまでの65年間60冊の年報の重みをかみしめ、より安全な社会への貢献をめざして所員一同力を合わせてまいりたいと思いますので、今後ともご指導のほどをよろしくお願いいたします。

平成27年12月

京都府保健環境研究所長 関本達之

*1：京都府衛生研究所報の引用文および原著名等は、原文のまま旧字体、旧かなづかいを使用しました。

*2：「京都府衛生研究所報（年報）」と「第〇號」は、「京都府衛生研究所報（年報）」と「第〇号」に統一しました。

目 次

調査研究

1	京都府における感染症流行予測調査事業（2014年） －インフルエンザ、麻しん、風しん及び水痘感受性調査－	1
	中山 淳一郎、杉浦 伸明、鳥居 潤、小山 雅史	
2	京都府感染症発生動向調査（2014年）－ウイルス検出情報－	8
	小山 雅史、杉浦 伸明、中山 淳一郎、鳥居 潤、真田 正稔	
3	JATA(12)-VNTR結核菌型別法による2014年京都府分離菌株の解析	12
	浅井 紀夫、平田 佐知、真田 正稔、鷺見 舞、堀 忍、中村 清康、和田 崇之、長谷 篤	
4	農産物中の残留農薬の検査結果－平成26年度－	16
	渡邊 真弓、濱田 幸子、大藤 升美、棟久 美佐子、小林 哲、中西 理恵、新井 清香、 藤永 祐介、樋口 泰則、茶谷 祐行	
5	エビのテトラサイクリン等試験法の妥当性評価について	24
	濱田 幸子、樋口 泰則、茶谷 祐行	
6	違法ドラッグ試買検査の実施について（2014）	28
	藤永 祐介、小林 哲、茶谷 祐行	
7	ヘッドスペースGC/MS法による1,4-ジオキサン、塩化ビニルモノマーと揮発性有機化合物の同時分析	34
	片山 哲郎、横田 景、中嶋 智子、山田 一成	
8	京都府内陸部におけるドロバチモドキ科のスナバチ3種の分布記録と営巣習性	39
	中嶋 智子、分銅 絵美、関 誠一、片山 哲郎、横田 景、越智 広志、山田 一成	
9	京都市伏見区の地表性甲虫（オサムシ科及びホソクビゴミムシ科）の種リスト （2014年4月から10月まで）	44
	横田 景、中嶋 智子、片山 哲郎、分銅 絵美、山田 一成	
10	大気常時監視データの因子分析によるPM _{2.5} 高濃度要因の推定	51
	谷口 延子、高倉 尚枝、大竹 秀平、日置 正	
11	平成26年（2014年）2月25日～26日に発生したPM _{2.5} 汚染におけるイオン成分及び無機元素成分の 時空間挙動に基づく特性解析	57
	辻 昭博、日置 正、齋藤 義弘	
12	PM _{2.5} とPM _{10-2.5} の2粒径観測によるPM _{2.5} 高濃度要因の推定	65
	高倉 尚枝、谷口 延子、平澤 幸代、日置 正、齋藤 義弘	

学会等発表等	75
--------	----

Contents

Research Papers and Materials

1	Epidemiological Surveillance of Vaccine –Preventable Diseases in Kyoto Prefecture, 2014 –Susceptibility Surveillance of Influenza, Measles, Rubella and Varicella –	1
	Junichirou NAKAYAMA Nobuaki SUGIURA Jun TORII Masasi KOYAMA	
2	Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases in Kyoto, 2014 – Infectious Viral Agents Surveillance Report–	8
	Masashi KOYAMA Nobuaki SUGIURA Junichiro NAKAYAMA Jun TORII Masatoshi SANADA	
3	Analysis by JATA(12)-VNTR Method on Isolates of <i>Mycobacterium tuberculosis</i> from People in Kyoto Prefecture at 2014	12
	Norio ASAI Sachi HIRATA Masatoshi SANADA Mai SUMI Shinobu HORI Kiyoyasu NAKAMURA Takayuki WADA Atushi HASE	
4	Survey of Pesticide Residues in Agricultural Products (Apr.2014-Mar.2015)	16
	Mayumi WATANABE Sachiko HAMADA Masumi OHFUJI Misako MUNEHISA Satoru KOBAYASHI Rie NAKANISHI Sayaka ARAI Yusuke FUJINAGA Yasunori HIGUCHI Yoshiyuki CHATANI	
5	Validation on Analytical Method for Tetracyclines Residues in Shrimp	24
	Sachiko HAMADA Yasunori HIGUCHI Yoshiyuki CHATANI	
6	Surveillance of Illegal Drugs Sold in Retail Outlets in 2014	28
	Yusuke FUJINAGA Satoru KOBAYASHI Yoshiyuki CHATANI	
7	Simultaneous Analysis of 1,4-Dioxane ,Vinyl Chloride Monomer and Volatile Organic Compounds by Head- Space GC/MS Method	34
	Tetsuro KATAYAMA Kei YOKOTA Satoko NAKAJIMA Kazunari YAMADA	
8	Records of Three Sand Wasps (Nyssonidae, Hymenoptera) in Inland Area of Kyoto Prefecture, with Their Nesting Habits	39
	Satoko NAKAJIMA Emi FUNDO Seiichi SEKI Tetsuro KATAYAMA Kei YOKOTA Hiroshi OCHI Kazunari YAMADA	
9	A List of Ground beetles Species (Carabidae and Brachinidae) in Fushimi, Kyoto from April to October 2014	44
	Kei YOKOTA Satoko NAKAJIMA Tetsuro KATAYAMA Emi FUNDO Kazunari YAMADA	
10	Presumption of PM_{2.5} High Concentration Factor by Factor Analysis of the Air Quality Monitoring Data	51
	Nobuko TANIGUCHI Naoe TAKAKURA Syuhei OTAKE Tadashi HIOKI	
11	Characteristic Analysis Based on Temporal and Spatial Variations of Ionic Components and Inorganic Elements in Relation to a PM_{2.5} Pollution Episode on February 25-26, 2014	57
	Akihiro TSUJI Tadashi HIOKI Yoshihiro SAITO	
12	A Study of PM_{2.5} Air Pollution Episode by Size-Segregated Observation of PM_{2.5} and PM_{10-2.5} Particles	65
	Naoe TAKAKURA Nobuko TANIGUCHI Yukiyo HIRASAWA Tadashi HIOKI Yoshihiro SAITO	